

主な競技規則改正 2020/21

キックオフ

- ・コイントスに勝ったチームが、第1ピリオドに攻めるゴールか、またはキックオフを行うかを定める。
- ・キックオフを行う競技者を除いて、すべての競技者はピッチの自分たちのハーフ内にいなければならない。
ボールは、けられて明らかに動いたときインプレーとなる。
(ボールは、横でも後方でもけることができるようになる)
(直接、シュートすることもできる)

ゴールクリアランス

- ・ボールは、投げられる、または、リリースされて明らかに動いたときインプレーとなる。
(ゴールキーパー以外の競技者は、ペナルティーエリアを出る必要はない。また、相手側の競技者がペナルティーエリアを出ることを待たずにゴールクリアランスが可能となる)

ドロップボール

次の状況でプレーが停止された場合、ボールはペナルティーエリア内で守備側チームのゴールキーパーにドロップされる：

- ・ボールがペナルティーエリア内にあった または
- ・ボールが最後に触れられたのがペナルティーエリア内であった。

その他の全てのケースにおいて、主審・第2審判のいずれかは、ボールが最後に競技者、外的要因または審判員に触れた位置で、最後にボールが触れたチームの競技者の1人にボールをドロップする。

(ボールを受ける競技者以外 全ての競技者は、2 m以上 離れなければなりません。)

フリーキック

2人以上の守備側チームの競技者が「壁」を作ったとき、すべての攻撃側チームの競技者はボールがインプレーとなるまで「壁」から1 m以上離れていなければならない。

ファウルと不正行為

ボールを手または腕で扱う

競技者が次のことを行った場合、通常は反則となる：

- ・手や腕を用いて競技者の体を不自然に大きくした
- ・競技者の手や腕が肩の位置以上の高さにある

(偶発的であってもハンドの反則となる)

通常の反則ではない：

- ・競技者が倒れ、体を支えるための手や腕がピッチ地面の間にある。
ただし、体から横または縦方向に伸ばされていない。

主な競技規則改正 2020/21

キックイン

場所

- ・ボールが出たところのライン上

足の位置

- ・ピッチ内でもよい

ボールインプレー

- ・けられて明らかに動いたとき

試合時間

タイムキーパーは、ピリオドの終了を音により合図する。

主審・第2審判が終了の合図の笛を吹かない場合でも、音による合図があったとき、ピリオドは終了する。

(ボールがけられゴールに向かっている途中に音による合図があった時点で終了となる。その後にボールがゴールに入っても得点は認められなくなった。)

主審・第2審判

負傷した競技者は、ゴールキーパーを含め、ピッチ内で治療を受けることができず、プレーが再開された後のみ、ピッチ内に戻ることができ、競技者は自分の交代ゾーンからピッチに入らなければならない。

(ゴールキーパーのピッチ内での治療が認められなくなった。)

試合結果の決定

ペナルティーマークからのキック (PK方式)

- ・最初に両チームが行うキック数 5本

(競技者の数 交代要員も含めて多いチームが キックを行える競技者の数を減らすかそのままか選択できる。)

ファウルと不正行為

得点、または、決定的な得点の機会の阻止 (DOGSO)

ゴールキーパーが自分自身のゴール前にいて、ゴールを守っていた場合、他のDOGSOの基準に合致していても、DOGSOの反則が犯されたとは考えない。

(退場：レッドではなく、警告：イエローとなる。)

4秒のカウントのシグナル

1秒1秒 腕を横に振りカウントする。

(フリーキックの際もこの方法でカウントします。)

更なる詳細は、「日本語版 フットサル競技規則 2020/21」によりご確認ください。

2020年9月6日
品川区フットサル連盟